地球のためにできること

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構　ニュースレター

□巻頭言/2023年度自動車リサイクル士 新規講習会の試験が無事終了～… P1
□SEMA SHOW 2023とジャパンモビリティーショー2023 の視察… P2,P3,P4
□第1回ブロック長会議を開催… P5 □トラック解体作業見学会・意見交換会・東日本自動車解体処理協同組合総会懇親会へ出席・各支部・ブロックの活動報告 … P6 □第8回印旛地域自動車ヤード対策連絡会議に出席… P7
□2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業10月出荷状況と今期累計 /10月新車販売・使用済自動車発生台数 … P8
□鉄スクラップ最新情報 … P9 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P10

vol.176

2023年度自動車リサイクル士 新規講習会の試験が無事終了 01

～試験結果の発表は12月４日(月)10時～

2023年度自動車リサイクル士新規講習会の修了試験の全日程が終了しました。今年は昨年を上回る263名もの方々からお申込みをいただき、一部の会場では定員数を増やして対応をして参りました。また、当日会場は大変混み合っておりましたが、皆様のご協力のお陰で試験をスムーズに進めることが出来ました。お申込みから始まり、業務の合間を縫って講習動画を視聴され、試験会場までお越しいただいた皆様には心より感謝いたしております。ご受講いただき誠にありがとうございました。

修了試験の結果につきましては、12月４日(月)午前10時に当機構のHPにて公開予定です。受講番号での発表となりますので、申込時にメールでお送りいたしました“受講番号と受講票”については、それまで保管いただきますようお願いいたします。

会場	申込数
札　幌	16名
仙　台	33名
東　京	89名
名古屋	17名
大　阪	20名
岡　山	36名
福　岡	37名
沖　縄	15名
合　計	263名

【今回の申込数】

【東京会場】

【大阪会場】

巻頭言

今年も終わりに近づいてきました。さて、本文ではＳＥＭＡショー視察について執筆させて貰いましたが、ここでは番外編を紹介したいと思います。

今回の米国視察旅行でネックになったのは何といっても「円安」でした。ペットボトルの水が２ドル、場所によっては５ドルとなるとさすがに水を買うことにも躊躇してしまいます。滞在するホテルもびっくり価格でしたので、我々は思い切って民泊を利用することにしました。5人で一軒家を借りて協同生活をすることにしました。ところがこれが快適で楽しい。買い出しに出掛け、料理を作ったりと、まるで学生時代に戻った気分。借りた家屋もプール付きで、プールサイドでビール片手にのんびり過ごす時間は、円安が招いてくれた思いがけない贈り物でした。

〈広報部会　永田　則男〉

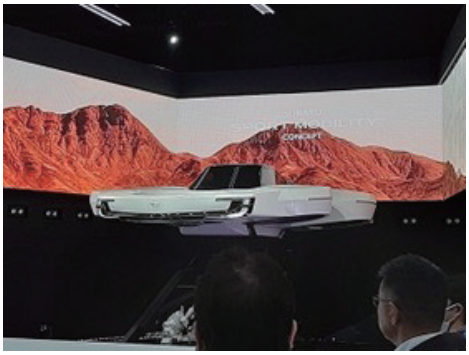
《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村　幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004 東京都港区新橋２丁目 11-10
BUREX FIVE 708
ＴＥＬ：０３－３５１９－５１８１
ＦＡＸ：０３－３５９７－５１７１
MAIL：jaera-homepage@elv.or.jp
ＨＰ：http://www.elv.or.jp/

ジャパンモビリティショー2023とSEMA Show 2023 参加レポート ～２つのショーで見えたもの～ 02

ジャパンモビリティショー 2023

10月26日から11月5日に「ジャパンモビリティショー2023」が東京ビッグサイトで開催されました。今回より「東京モーターショー」から「ジャパンモビリティショー2023」と名前が変わり「乗りたい未来を探しに行こう！」というサブタイトルで開催され111万2千人が来場しました。会場内は各メーカーのブースが並び、コンセプトカーには主に電気自動車が多く展示されており、大手自動車メーカー以外の企業もオリジナルの電気自動車を展示していました。

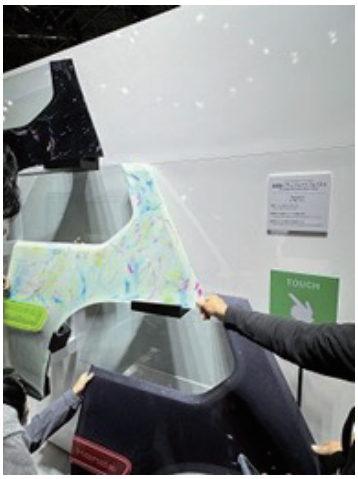


その他スポーツカーブームの再来を感じさせるものとしてトヨタFT-Se、日産NISMOフェアレディZ、NISMOスカイライン、ホンダ新型プレリュード、スバルスポーツモビリティコンセプト、ダイハツビジョンコペン等スポーツカーの展示もあり、多くの人が集まっていました。

また、電気自動車をはじめ電動バイクや電動自転車等のモビリティ等、電気のものが多く展示され、今年新設されたばかりの「特定小型原動機付自転車」を対象にした電動キックボード等も展示されていました。

ホンダは再生素材としてリサイクルしたアクリルのフロントフェンダーを展示しており、硬く加工がしにくいイメージのアクリルですが、実際に触れてみるとポリカーボネートのようにやわらかく丈夫な素材となっていたので、今後ホンダ車の外装部品に使用されていくのかもしれません。

どの企業も概ね電気、電動が主体でした。今年は「モビリティショー」に名称が変更され、自動車以外のモビリティも多く出展されており、どれも実用化されれば非常に便利になり今以上にいろいろな可能性が広がる一方で、電動モビリティに搭載されているバッテリーの処理に関わる問題も出てくると思うので、そこをどのようにクリアしていくのかも今後の課題になるのかもしれません。



ジャパンモビリティショー2023とSEMA Show 2023 参加レポート ～２つのショーで見えたもの～ 02

SEMA Show 2023

世界最大規模ともいわれているＳＥＭＡショー（アメリカ・ラスベガス）に行って参りました。ＳＥＭＡショーは米国自動車用品工業会（ＳＥＭＡ）が主催するアフターパーツトレードショーで、今年は10月31日から11月3日までの期間で開催されました。コロナ禍の影響もあり昨年までは来場者の足も遠のいていたようですが、今年はようやく以前の賑わいに戻ったとのことです。

広大な展示会場には2,400社におよぶ出展企業が連なり、正に自動車の祭典、多くの来場者でごった返しとても賑やかです。世間では車離れと言われて久しいですが、ここＳＥＭＡショーにおいてはそのような雰囲気は微塵も感じられません。むしろ車好きにとってはたまらない魅力があります。屋内、屋外にはところ狭しと大量のカスタムカーや高級スーパーカーが展示されています。一台一台が専門のメーカーによって美しくカスタマイズされ、自動車というよりもむしろ芸術品そのもの、飽きることなく一つ一つのブースを楽しむことができました。

少々驚いたのはＥＶ車の展示ブースが思いのほか少なかったことです。時代の流れ的にはＥＶ車関連の展示ブースが多いように思ったのですが、ことＳＥＭＡショーにおいては、まだまだＮＡエンジン、ターボエンジン車が圧倒的な存在感を示しており、ＥＶ関連は控えめでした。ところが、展示ホール間を結ぶシャトルサービスではＥＶ車が大活躍をしていました。「ベガスループ」といわれるもので、イーロン・マスク氏がつくった新交通システムです。展示ホール間の地下トンネルをテスラ車が走り、来場者の移動に利用されていました。地下のステーションには次から次へとテスラ車がやってきて、ほとんど待ち時間なく次の展示ホールへスムーズに移動できます。歩いて10分かかるホール間の移動が、わずか2分足らずで可能です。これは便利。排気ガスの出ない、しかも最新のＥＶ車は乗り心地も良く、狭い地下トンネルの移動を楽しむことができました。広大なアメリカ大陸ではインフラ整備を考えるとＥＶ車の普及は難しいのではと思っていましたが、地下トンネルような狭い空間の運行であれば、排気ガスのないＥＶ車は圧倒的に有利です。また決められたルートを走行するシャトルなので、おそらく将来的には自動運転も導入されることでしょう。

自動車産業はまだまだ進化できることを確認できた今年のＳＥＭＡショーでした。しかしながら、なにしろ広大な展示会場ゆえに１日で見終えることはまず無理に近いものがあります。我々も３日間通ってやっとすべてを見終えました。ベガスループを利用したとはいえ、１日20,000歩越え、約10キロを３日間はさすがにこたえました。展示会は体力も大事だと痛感した次第です。

２つのショーについて

コンセプトカーや未来型の車を展示するジャパンモビリティショーとアフターパーツを中心に展開されるSEMA Showでは、対象が多少異なるところはあるものの車業界の傾向を掴む参考になればと今回2つの展示会を紹介させて頂きました。

今年は電気自動車の展示が少ないSEMA Showですがコロナ禍の入場者数が少なかった昨年は、やはり日本同様に電気自動車の展示が多かったと聞いています。日本においても数年前は「将来は全ての車はＥＶ（もしくは次世代自動車）」へ移り変わると思われていましたが様相が少し変化しています。例えば、ドイツはＥＵ（欧州連合）に対し、2035年以降、カーボンニュートラルな燃料「eフューエル（合成燃料）」を動力源とする新車の販売を認めるよう要請、ポルシェは内燃エンジン車とEVを並行して生産できるようにしています。この様な変化を受けて今年のセマショーはEV展示が少ないのかは定かではありませんが注視したいところです。

SEMA Showで印象的だったのは、4年前に比べ日本車の展示が少なくなったことでした。寂しい思いがしましたがトヨタ自動車のブースではレクサスのRXやLXやトラックがアウトドア仕様でお洒落に展示され、ブースも賑わっていました。トヨタ自動車の様にALL電気自動車から地域性や使い道に応じて内燃エンジン車やハイブリッド、水素自動車、電気自動車と使い分けする期間が今後続く様に感じました。とは言っても全体の流れは、電気自動車にあることは事実ですので我々は、時代の変化を読みつつ、どの様な車に対しても対応できる準備が必要であると感じています。

2024 SEMA SHOW 開催日程

■2024年11月05日(火) ～ 2024年11月08日(金)　ラスベガスコンベンションセンター

第1回ブロック長会議を開催 ～今後の事務所とブロック支部活動費の２つに焦点～ 03

2023年度第1回目のブロック長会議が、11月15日（水）ForumS５東洋海事ビル（東京都港区）で対面とWEBのハイブリッド形式で開催され、全国の８ブロック長と常任役員等を含めた計17名が久しぶりに一堂に会する形となりました。（本来のところ7月11日に開催の予定でしたが、事務所入居ビルの火災の影響により延期となっていました）

～事務局は現在は仮オフィスで業務を行っております～

■仮オフィス住所
〒105-0004　東京都港区新橋2丁目11-10 BUREX FIVE 708
■電話番号
03-3519-5181（番号の変更なし）
■FAX
03-6846-0922（以前の番号と異なります）

【会議の様子】

会議の主な内容

① 機構事務局 阿部参与からの挨拶

「JAERAの役割やこれからの可能性などを自身の知見を活かして更に広げていきたい」と9月からJAERAの仲間に加わった阿部参与から挨拶がありました。

② 機構事務所の今後について

7月に火災があり現在は近隣のレンタルオフィスで可能な限り日常業務を行っていますが、あくまでも仮オフィスであり業務スペースが極端に狭いことから、火災のあったビルの状況と今後の対応について、今後のオフィスについて報告がされました。

③ 会員データ調査

行政や関係諸団体等との様々な議論において、業界の抱える問題や要望を発信する際に全体の解体業許可事業者のうち、「機構会員の占める割合」や、全体の処理台数における「機構会員の処理台数のシェア」のデータが必要となってくると考えられるため、機構会員の処理台数などの機構全体の基礎データを整備するための会員データ調査を10月～11月に行っており、その進捗状況について説明が行われました。

④ 賛助会員増強について

会員増強活動に加え、自動車解体業界に関わりがありJAERAの活動に賛同いただく「賛助会員」も増強していく必要があるとして、機構会員と賛助会員の双方にメリットを生み出せるような新たな取組みについて説明が行われました。

⑤ ブロック・支部活動費について

地域での活動を活性化させるための必要経費に活用が出来る“支部活動費”と“ブロック活動費”ですが、より円滑に活用がされるよう、今期からは“ブロック・支部活動費”として一本化し、ブロック単位で予算の割り当てを行いました。また、「会員の皆様から頂いている会費から割り当てるものであるため、使いやすくもキチンとした規約の整備が必要」と新たに取りまとめた活動費の規約案について意見交換がされました。

⑥ 次年度の自動車リサイクル士講習会について

自動車リサイクル士制度の企画・運営を行っているリサイクル技術部会から佐々木部会長が参加し、昨年よりも多くの申込み数があった今回の新規講習会について各ブロック長への御礼と次年度の講習会について試験会場の見直しなどの意見交換が行われました。

⑦ 日本鉄リサイクル工業会との意見交換

一般社団法人日本鉄リサイクル工業会の方々に会場にお越しいただき、解体業界と破砕業界で抱える課題や取組みなど多岐に渡って意見交換が行われました。

トラック解体作業見学会・意見交換会が エコアールで開催 04

11月10日(金)にJTP・JAERA共催の「トラック解体作業見学会・意見交換会」が栃木県足利市の株式会社エコアールで行われ、経済産業省、一般社団法人日本自動車車体工業会など当機構含め30名以上の方々が集まりました。実際にトラック（バキュームカー）の解体作業を見学するなかで、解体する際の道具や手順、方法など工夫している点など、また注意すべきポイントや課題などについて情報・意見交換が活発に行われ閉会となりました。

【バキュームカー解体の様子】

東日本自動車解体処理協同組合　総会懇親会へ出席 05

11月17日(金)長野県千曲市で当機構団体会員でもある東日本自動車解体処理協同組合の総会懇親会が開催され、本部からは酒井代表が出席されました。

総会後の研修会では、資源新報の小松様から自動車解体業界の歴史、特に全国組織がどのように立ち上げられていったか、参加の組合員も世代交代が進んでいることもあり、会場の皆様が興味深く耳を傾けていました。

また株式会社ワタベの渡部様の講演では、主に非鉄金属についての情報が提供されましたが、関心が高かったのがステアリングホイールに使われているマグネシウム合金の話でした。今まで見過ごされていた素材にも目が向ける必要があると感じる内容でした。

【総会懇親会の様子】

各ブロック・支部での活動報告 06

福島県支部 ―適正講習会を開催―

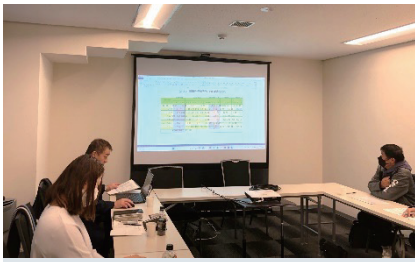
11月４日(土)福島県郡山市にて福島県支部の適正講習会が催され、３年ぶりの開催となった今回は計21名が受講され、緊張感のある雰囲気で始まりました。前半は自動車再資源化協力機構の藤様より解体事業者の皆様へ日頃のご協力に関しての御礼と、フロン類・エアバッグ類の適正な処理と報告に関して改めてお願いがありました。

また、後半は株式会社プロトリオスの小川様よりＥＶに関しての取り扱いや注意点、自動車メーカーにおけるリサイクルへの取り組みなどを事例交えながら説明いただきました。終了後、各受講者には修了証が授与され、業務に対しての自覚を再確認していた様子でした。

【講習会の様子】

九州ブロック ―福岡県でブロック会議を開催―

11月18日(土)福岡県福岡市で対面の九州ブロック会議が開催され、ブロック長を中心に本部の報告、ブロックでの活動方針、各支部からの報告や情報共有などが行われました。各地域では入庫状況が芳しくない状況が続いており、他社との価格競争激化の様相が続いていることから、今後、一般ユーザーからの入庫を増やす施策としてＬＩＮＥの活用や自社ホームページに工夫を加えるなどで少しでも入庫が促進出来ないかということで、実際の活用例やシステムの紹介などがありました。



【ブロック活動に関する意見交換】

第8回印旛地域自動車ヤード対策連絡会議に出席

07

【会議の様子】

11月21日（火）に印旛合同庁舎にて、年に一度の千葉県警察、千葉県産業廃棄物指導課、他関係者との印旛地域自動車ヤード対策連絡会議が開催され、JAERA千葉県支部として酒井代表が出席しました。また、今回は自働車リサイクル促進センター（JARC）や自働車再資源化協力機構（JARP）も出席されておりました。千葉県警察国際捜査課からは、印旛地域における自動車ヤードの現状についての報告があり、全国には約3,700カ所の自動車ヤードが存在し千葉県では696カ所（令和5年10月現在）と、昨年よりも48カ所増加となっており、特に印旛地区に6割が集中し、国籍別ではアフガニスタンが4割、他スリランカ、台湾、日本、パキスタンと続いているとのことでした。

また、ヤードが密集しているヤード団地があり、輸出手続き代行業者などインフラが整っていることで、新規参入しやすい環境が形成されており、上空からの監視も行っているが、最近では倉庫型ヤードも見られ中で何をしているのか分かりにくいヤードもあるとのことです。

次に千葉県ヤード・残土対策課　自動車ヤード対策班からは799カ所のヤード（令和5年3月末時点）の内訳として自動車解体業者のヤード456か所、自動車ヤード条例の届出業者343カ所（千葉県と千葉県警察でヤードの定義が異なる為、件数が異なります）あり、届出ヤード運営者の国籍は外国籍87％（アフガニスタン、スリランカ、台湾、ナイジェリア、タイ等）日本国籍13％となっているとの報告がありました。

自動車ヤードへの立入り件数については、令和4年度469カ所へ513回、コロナ前700～800回の立入りに比べると減っているのが現状のようです。外国籍のヤード運営者への立入検査や指導では、通訳の同行や翻訳機を活用しており、立入りに入られる業者も立入りの対応に慣れてきているとのことです。

指導事項としては、主に①油等の地下浸透・流出の防止処置、②無許可解体の禁止、③不法焼却の禁止で、最近の動向としては、新規業者の進出や経済活動は回復傾向、修理業者の増加（輸出ではなくオークション等によって国内向けに売却する形態に変えている業者が増加傾向）が見られるとのことです。

JARCからは「自働車リサイクル　外国人事業者への支援計画」について、近年、自動車リサイクルにおける外国人事業者数や外国人事業者による使用済自動車の取り扱い件数が共に増加傾向のなか、一部の外国人事業者による不適正事案（不適正な解体・不適正な保管）や無許可解体が問題となっていると報告がありました。不適正事業者のうち、知識不足の事業者や自ら適正化を図る事業者をサポートするスキームの構築を目的として、現在、複数言語の自動車リサイクル実務者用ツールの作成や自治体と協力した周知活動の推進、並びに不適正事案等の解消に向けて、関係団体と連携しての研修支援を検討しているとのことでした。

JARPからは「フレーム状態の中古車について」の発表がありました。解体業者を訪問し、車体番号をリサイクルシステムで確認したところ全て未引取りという状況で、その解体業者は中古車と釈明しているようです。千葉県や千葉県警察へ今後の立入りではフレーム状態でありながら「中古車」としている車体がないか、盗難車の車体番号付け替えなど、違法な用途を分かっていて販売していないかの確認をお願いされていました。

会議の最後には、千葉県警察国際捜査課長より、外国籍の事業者とのコミュニケーションを図る事は言語の違いや文化の背景が異なる為難しい部分がありますが、適正化に向けての指導を協力していきましょうという言葉で閉会となりました。

2023年度 駆動用ＨＶバッテリー共同出荷事業 10月出荷状況と今期累計 08

上段：10月出荷数　下段：今期累計　単位：個

参加会社数（社）	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダー	クラウン HV GWS204	クラウン HV AWS210
24	4	24	1	0	30	0	1	3
64	53	274	3	0	383	5	6	6

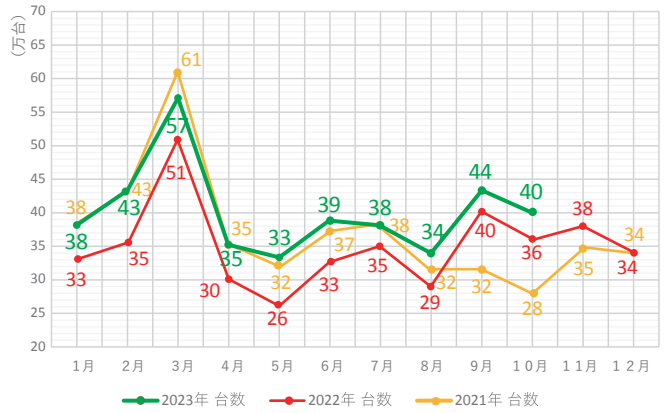
SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア /ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A~C	合　計
1	0	4	0	1	0	0	20	89
8	60	14	3	3	0	1	143	962

□2022年度の結果はこちら▶ https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853

10月新車販売・使用済自動車発生台数 09

■2023年10月度 新車販売台数　397,672台（前年同月比110.7%）

新車販売の月別推移（2023年 2022年 2021年）



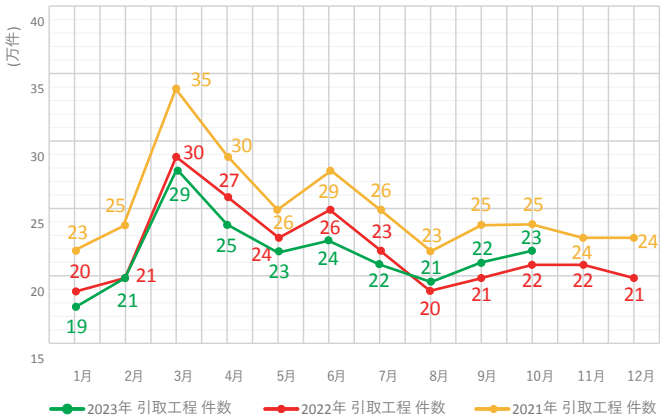
過去の新車販売台数推移

年累計	台 数	前年比(%)
2023年（10月まで）	4,005,158	115.1
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人　日本自動車販売協力連合会

■2023年10月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況

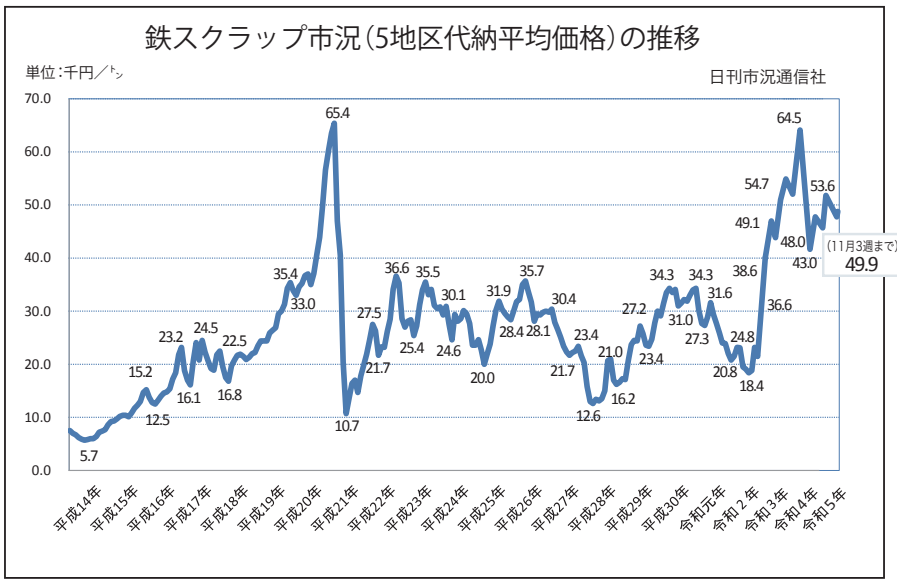
使用済自動車引取件数の月別推移（2023年 2022年 2021年）



引取件数	
10月	233,468件（前年同月比106.8%）
フロン回収工程	
10月	209,470件（前年同月比108.9%）
解体工程	
10月	241,373件（前年同月比107.7%）

※出所：公益財団法人　自動車リサイクル促進センター

11月第3週(24日)の鉄スクラップ動向



11月24日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	49,500～51,500	軟調様子見
	南関東	49,500～51,500	軟調様子見
	浜値	49,000～50,000	様子見
名古屋		48,500～50,500	様子見
関西	大阪	50,500～51,000	強含み様子見
	姫路	50,000～50,500	様子見

トルコの輸入鉄スクラップ市場に新規成約、価格も小幅上昇

トルコの輸入鉄スクラップ市場では、11月第4週に入り再び購入手当てを進めるミルが出ている。数は少ないものの新規成約が散見され、価格は小幅に上昇した。同市場では11月前半まで新規成約が続き価格が上昇した後、鉄スクラップ在庫の確保に目途がついたトルコミルが引き合いを弱めていたが、冬季となり発生減が予想される中、既に発生が伸びていない。このため、トルコミルは鉄スクラップの確保のため再び購入に動いた。

ただ、トルコ産の鋼材に対する需要は停滞している。トルコミルは値上がりした鉄スクラップ価格や各コストの上昇分を製品価格に転嫁したい意向だが、現在の製品の提示価格に対するユーザーの反応は悪い。

直近の新規成約の例では、欧州玉のHMS1&2（80:20）がCFR385㌦、シュレッダーがCFR408㌦を付けた。両品種間の価格差はこれまで20㌦どころにあったが、再びシュレッダーに高値が付く傾向にある。またバルト海玉の成約ではHMS1&2（80:20）がCFR387㌦、ボーナス（HS相当）がCFR407㌦を付けた。

さらに米国玉の成約も見られ、HMS1&2（90:10）がCFR393㌦を付けた。欧州玉およびバルト海玉の動向から推定すると、米国玉HMS1&2（80:20）の中心値は実質的にCFR390㌦前後に上昇した状況だ。

【関東地区】　需要家筋の大勢様子見も一部値下げ

関東市場の需要家筋の大勢は、スクラップ購入価格を据え置いたまま様子見の姿勢を維持している中、一部電炉の値下げ改定が散発している。H2浜値が先行安となっていることもあり、H2電炉購入価格の下値も5万円を割り込んでいる状況だ。H2炉前実勢価格は49,500～51,000円中心、高値51,500円見当。H2浜値は49,000～49,500円中心、高値50,000円見当。電炉購入価格よりも安値水準のまま、様子見横ばいが続いている。

【東海地区】　荷動き芳しくなく市場は様子見商状

名古屋地区の鉄スクラップ市場は、様子見商状にある。11月第4週前半にかけては一部メーカーに設備修繕に伴う荷止めが行われたため、東京製鉄・田原工場の陸上入荷にも上振れが見られた。生産水準の高いメーカーは独自のスポット調達を進める筋もあり、極端に入荷が落ち込むメーカーは見られないが、発生減が長期化していることもあり全体的な荷動きは芳しくない。H2炉前実勢価格は48,500～50,000円中心、高値50,500円見当。

【大阪地区】　複数が在庫余力抱え様子見の展開

大阪地区の市況は強含み様子見のまま月末を迎えつつある。輸出市場の停滞感は目立つが、電炉入荷はバラ付きが生じたままで、需要を満たし切れていないため堅調感が持続する展開となっている。電炉筋の入荷については安定感を欠くが、平均すると目に見えては悪化していないため、価格対応の足並みにはバラつきがある状況だ。H2炉前実勢価格は、大阪地区が50,500～51,000円、姫路地区が50,000～50,500円で横ばい推移が続く。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月24日午後時点のもの）

行事予定

December

ー12月の主な行事予定ー

■12月1日（金）
・東北ブロック会議（対面）

■12月4日（月）
・自動車リサイクル士新規講習会 合格発表（当機構HPにて）

■12月6日（水）
・第2回 理事会（WEB）

■12月7日（木）
・中部北陸ブロック会議（対面）

■12月12日（火）
・第8回 広報部会（対面）
・J-FAR（エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり）定例会（WEB）

■12月13日（水）
・JARC主催 第２回 自動車リサイクル会議（対面・WEB）
・日本自動車リサイクル機構 第14回景況調査（～27日まで）

■12月18日（月）
・第2回 自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けた検討会(WEB)

■12月21日（木）
・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)定例会（WEB）

※12月29日(金)～1月4日(木)まで事務局はお休みとなります。
※　急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ　ニュースレター定期購読はこちらから！

毎月ニュースレターが発刊した際は会員の皆様の登録されているメールアドレスにご案内をしておりますが、更に多くの方々にご覧いただきたいと思っております。
「ご自身のスマホでご覧になりたい」、「会社のパソコン以外にも案内を送って欲しい」という皆様にはニュースレターの購読をおすすめしております！
以下のアドレスに空メールを送っていただくと簡単に登録が出来ますので、ぜひこの機会に定期購読の登録をしてみてください！（もちろん無料です）

ニュースレター購読申し込み

【登　録】以下のＵＲＬからお申込み下さい👇
https://forms.office.com/r/vast5G9cq9

ニュースレターへのご意見・ご要望・情報提供はこちらから▶　https://forms.office.com/r/eZgjntdcVZ

編集後記

急に冬めいてきた今日この頃ではありますが、この夏は世界中温暖化を通り過ぎて地球沸騰化とまで言われ始めました。温暖化の原因は分かっていても、大国は自国の経済成長が大事で、成長を目指す政府が助言を求める経済学者達のほとんどは気候変動には無関心のような気がします。
人類が生存できる地球環境のために世界中が今日協力して臨まなければならないこの時に、こともあろうか世界各地で戦争を始め、世界中が軍備拡張に向かっているとは何ということなのでしょうか。聞くところによると軍事活動でのCO2排出量は途轍もない量だそうです。また、ミサイル製造であったり砲弾作り、戦車や戦闘機などの武器製造にも膨大なエネルギーを使いCO2を排出することでしょう。
恐らく今後も洪水と干ばつが繰り返され、熱波で森林が燃え続けても、はたまた南極の氷が溶けだしたり、永久凍土が融解しても戦争と経済成長を止めないであろう人間とは何なのかと思います。悲しいことではありますが、愚かとしか言いようがないような気がします。
私達は地球環境を守るために必要不可欠の仕事をしていると自負しているところですが、全世界から見れば極々僅かな成果しか見いだせていない歯がゆさがあります。もし今、流行りのAIに「地球を助けてくれ」とお願いしたなら、「直ちに人間を地球から追い払うこと」と返答するかもしれません。

（広報部会長　田村　幸男）